

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年7月23日

【評価実施概要】

事業所番号	0872000906		
法人名	東成産業株式会社		
事業所名	グループホーム いちさと		
所在地	茨城県つくば市柳橋122-8 (電話) 029-836-2000		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成21年3月13日	評価確定日	平成21年7月21日

【情報提供票より】 (平成21年2月13日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年1月7日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	15 人
職員数	17 人	常勤	9人, 非常勤 8人, 常勤換算 5.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺平屋 造り		
	1 階建ての	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,400 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有 (70,000円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	—
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,300 円		

(4) 利用者の概要(平成21年2月13日現在)

利用者人数	15 名	男性	5 名	女性	10 名
要介護1	2	要介護2	6		
要介護3	5	要介護4	1		
要介護5	1	要支援2	0		
年齢	平均 81.5 歳	最低	70 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	筑波記念病院、つくば在宅クリニック、広瀬歯科医院
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

常に相手の立場に立って気持ちを理解するとともに利用者が安心して暮らせるよう、まごころと感謝の気持ちで支援するとの新しい理念を全職員で話し合い作成している。
家庭の延長としての生活の場を提供するため、施設長や管理者、職員は理念を共有して支援に努めている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 思いや意向の把握については生活歴を全職員で話し合い、利用者の思いの共有に努めている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) ミーティングやカンファレンスで自己評価や外部評価の意義や目的を話し合ったが、職員は理解するまでには至っていないので、施設長や管理者は職員が理解できるよう取り組むとともに自己評価を全職員で行い、気付いた課題の改善に努めることを期待する。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2ヶ月に1回区長や民生委員、市職員、利用者、家族等の代表、職員で開催している。 毎回テーマを決めて話し合い、出た意見をサービスの質の向上に活かしている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族等の訪問時に意見や苦情、要望を聴くよう努めている。 意見箱を設置するとともに重要事項説明書に苦情相談受付担当者と国民健康保険団体連合会や市福祉事務所の連絡先を明記しているが、意見を出しにくい家族等の気持ちを汲みあげるため無記名のアンケートを実施したり家族会を設立するなどの工夫を期待する。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホームの畑で収穫した野菜を使い芋煮会を開催し、地域の人々を招待して交流している。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	全職員で話し合い、新たに独自の理念をつくるとともに地域に根ざし、利用者がその人らしく暮らし続けられるよう全職員で支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関や職員更衣室、調理室の目に付く場所に理念を掲示し共有して実践に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの畑で採れた野菜を使い芋煮会を開催するとともに、地域の人々を招待して交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ミーティングやカンファレンスで自己評価や外部評価の意義や目的を話し合ったが、職員は理解するまでには至っていない。	○	施設長や管理者は職員が意義や目的を理解できるよう取り組むとともに自己評価を全職員で行い、気付いた課題の改善に努めることを期待する。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回区長や民生委員、市職員、利用者、家族等の代表、職員で開催している。 毎回テーマを決めて話し合い、出た意見をサービスの質の向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者とは運営推進会議や地域密着型グループホーム連絡会で情報交換をしている。	○	市保健所に栄養相談をするなど更なる連携を図り、サービスの質の向上に取り組むことを期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等の訪問時に利用者の日常の様子を報告するとともに毎月の請求書の発送時に利用者の近況と「いちさとだより」を送付し暮らしぶりを報告している。 また、金銭管理は領収書を添付し収支報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の訪問時に意見や苦情、要望を聴くように努めている。 意見箱を設置するとともに重要事項説明書に苦情相談受付担当者と国民健康保険団体連合会や市福祉事務所の連絡先を明記している。	○	意見を出しにくい家族等の気持ちを汲みあげるため無記名のアンケートを実施したり家族会を設立するなどの工夫を期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が退職した場合は馴染みの職員を配置し、利用者への影響が少なくなるよう配慮している。 また、管理者は職員の希望にそって勤務時間の調整をするなど離職が最小限になるよう配慮している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	地域密着型グループホーム連絡会の勉強会に職員が交代で参加している。 外部研修も希望に合わせて実施しているが、計画通りに受講するまでには至っていない。	○	職員が外部研修に計画的に参加できるように支援するとともに、研修報告で内容を全職員で共有し、働きながらの学びにつなげることを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型グループホーム連絡会で月1回同業者と情報交換や交流をしている。 連絡会が実施する勉強会で同業者の職員と交流したり事業所見学をしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員は利用前に利用者宅を訪問して利用者や家族等から家庭での生活を聞き生活歴を把握するとともに、馴染みの関係を築いてから利用を開始している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	アセスメント票から利用者の希望を把握し、食事の準備や後片付けを一緒にしたり畑で野菜作りや草取りなどを利用者から教えてもらうなど、支え合う関係を築いている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活歴を全職員で共有するとともに毎日の様子から気持ちを汲み取り、日々の介護に活かしている。 また、家族等からも意向を聴いている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	サービス担当者会議で管理者と職員が話し合うとともに利用者の状況や生活習慣を参考に全職員で検討して介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用契約書に明記した期間毎に介護計画を作成している。 また、利用者の状態に変化が生じた場合は速やかに関係者で話し合い、現状に即した介護計画に見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の希望する床屋への送迎、食べ物や衣類の買物の付き添いをしている。 遠方への送迎は1時間千円の有料となっている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅専門医の協力医療機関を利用者と家族等に紹介し、了解を得られた場合は主治医を変えている。 利用前からの主治医の利用者は送迎をするなどで適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者や家族等の意向と医師の指導のもとで重度化への対応を行い、関係者の話し合いを深めながら看取りをしている。 家族等から重度化、看取りに関する同意書に署名を得ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りを傷つけないような言葉かけをしたり、着替えの時は個室へ移動して支援している。 個人情報の書類は事務室の鍵のかかる棚に保管している。	○	トイレの扉を開け放つか閉めるかなどの管理について全職員で話し合い、共有して支援することや行事での写真なども個人情報なので利用者や家族等の了承を得て同意書を作成することを期待する。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の利用者のペースを大切にするとともに利用者の習慣や生活歴から思いを汲み取り、穏やかに生活ができるよう希望にそった支援をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者はテーブル拭きなどできることを積極的に担っている。 食材は配達を利用し、ホームで調理している。 利用者と職員で食卓を囲み一緒に食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴のスケジュールは立ててあるが、その日の利用者の希望にそって支援している。 利用者の気持ちを大切にタイミングを計り声かけ支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑の草取りや野菜作り、床のモップがけなどの役割を担ってもらったり、レクリエーションやホーム行事で楽しみごとや気晴らしができるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの外で日向ぼっこしたり、近くを散歩したり、食べ物などを買いに出かけるなど利用者の希望にそって外出支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は事務所から目配りをして施錠をしていない。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署指導のもと定期的に避難訓練を実施している。 報告書等は作成している。	○	近隣の人々に協力が得られるよう働きかけるとともに、避難訓練のマニュアルを作成することを期待する。 災害に備えて食糧や飲料水の備蓄が望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は栄養計算された食材を配達してもらっている。 水分や食事の摂取量は利用者ごとにチェック表に記入している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関の段差はなく、共用空間はゆったりと過ごしやすくなっている。 食事中はテレビを消し、落ち着いた生活ができるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者や家族等の希望で使い慣れた家具を部屋に配置したり、自宅で布団を使用していた利用者は畳みを敷くなど今までの習慣に合わせた支援をしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。